

2024 年度:こども園自己評価の報告書 東豊中こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・引き続き 5S を意識し、子どもも自分なりに身の回りの整理整頓をしながら自分のことを自分でできるよう意識してきた。 ・日々の生活の中の遊びが学びにつながっていくことを意識し、子どもが何度も繰り返し試しながら考えられる環境を意識した。 ・乳児の頃より、与えられるだけではなく、「自分で選ぶ」という経験を大事にし、自分の思いを出せる心理的安全性を大事にしてきた。 ・人との言葉のやり取りでの心地よさが感じられるように、あいさつなどのやり取りを大事にしてきた。
健康支援	・感染症対策として、看護師を中心に家庭や保育教諭と連携を取りながら、体調不良の早期発見、治療促進、早期予防に努めた。 ・感染症流行時は、すぐに配信アプリを使って配信し、情報の共有に努めた。
安全指導・危機管理	・毎月の安全点検で、施設の設備に不具合がある場合は早急に設備保全に努めた ・災害、防犯などの避難訓練を月に 1 回行い、その都度子どもと、災害避難について考える機会を持ち、どのように避難するのか子ども自身が考えて避難できるように経験を積み重ねた。
食育の推進	・各クラスで様々な野菜を子どもと一緒に育てながら、野菜の成長に興味を持ったり、調理したりすることで、食の意識が持てるようにした。 ・厨房施設があるので、給食のメニューに出る珍しい野菜や旬の野菜に触れたり、皮むきなどをして調理を手伝ったりした。 ・行事の時などにその時の食事のメニューの由来を厨房の職員が伝えたり、日々の給食のメニューや食材について保育室で各クラスの年齢に応じて伝えたりすることで食に興味を持ち、意欲的に喫食できる子どもが増えた
子育て支援（在園児および地域）	・子どもの成長や発達について、保護者と情報を共有しながら共に子育てができるようにしている。必要な時は専門の他機関に相談先をつなぎ、子どもにとってより良い環境になるように意識している。 ・普段のあいさつや日常会話から保護者と関係をもち、相談してもらえる関係性をめざしている。 ・地域支援センターに來られている地域の方の子育てや発達の悩みを共有し必要な時には各連携機関とつないでいく。
インクルーシブ教育保育	・ルーツを日本以外に持つ子どもや、集団生活で支援が必要な子どもと共に園生活を送るために、過ごしやすい環境や、ひとりひとりの子どもの人権を大事に意識し、クラスづくりをしてきた。 ・子ども一人一人の発達段階や特性を理解し、その子に応じてクラス活動に参加できる方法で参加している。

職員の資質の向上	・園評価：行事ごとのアンケートの振り返りや、こども事業課の行うアンケート結果、評議員の意見などを踏まえて日々の教育保育にフィードバックできるようにしている。 ・自己評価：研究保育（公開保育）を各クラス年に1回行うことで、園内外の職員や、関係諸機関から意見をいただき、子どもへのかかわり方を振り返る機会にしている。 職員面談をする際に、教育保育だけでなく、仕事への向き合い方も振り返る機会としている。 ・ガイドライン：豊中市の「教育保育環境ガイドライン」の項目を公開保育の時に各自決めて、それをもとに反省考察を行っている。
幼保こ小中の連携・接続	・昨年度に引き続き園内研究のテーマが幼保こ小の連携なので無理なく継続できるところから行っている。小学校の予定に合わせて行くことで継続できているところがある。 ・今年度は近隣の私立幼稚園の参観に参加できる機会があり、次年度は子ども同士の交流を含めて交流を進めていきたい。
評議員会	・地域の学校園所の関係者の方や、民生委員、児童委員、福祉委員の方に年間通して3回園に来て、クラスの教育保育や環境について気づいたご意見をいただき、普段の園運営にフィードバックしている。 ・地域での見守りが必要な家庭もあるので、連携することの大切さについて話し合う機会にしている。
その他	・引き続き既存のやり方にとらわれず、保護者や職員の負担にならないように行事や参観の行い方や、情報の提供、発信、受信を都度見直し、改善していく。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
アンケートの結果より ・子育ての相談相手がいないこと、規則正しい生活が難しいこと ・挨拶など基本的な生活習慣が身につけられていないこと	・普段より保護者の方とあいさつや会話を重ねて、子育ての悩みなどを相談しやすい雰囲気になるようにする。 ・子どもたちが、あいさつや身の回りの始末などが意識できるよう、大人の保育教諭が子どもたちのモデルとなり、子どもたち自身が意識できるようにしていく
教育保育の質の向上	・保育教諭自身が今どのようなところに興味を持ち、または困っているのかを普段の教育保育の子どもたちとのかかわりから知り合い、意識的に声を掛け合うことで、必要な研修に行き学びが深められるようにする。 ・公開保育でほかの保育教諭から保育について意見をもらい、自分の日々の教育保育にフィードバックしていけるようにする。

令和7年（2025年）3月31日

豊中市立 東豊中こども園

園長名 黒澤津ルミ